



## 「脚下照顧」



### 『多度の白犬伝説と県立鹿児島工業高校OBの関係』

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。年末年始工事に於きましては、特に長野県出張組の方たちは、さぞかし寒かったことだろうと思われませんが、本当に皆様、ご協力ありがとうございました。

さて、今年の今頃、確か皆さんに『多度の白犬伝説』のお話をさせていただいたと思います。むかしむかし(昨年)お正月に多度に工事に行ったとき、多度大社の方角の山から一匹の白い犬が降りて来たところ、田中さんがその腹をすかせ、尻尾を丸め、人間に怯えてしまっている白犬に、たいそう親切にパンを与えたそう。というお話だったと思います。そして今年の幸福のキーマンは田中さんですよと予言させていただきました。結果はどうだったと思いますか？

実はなななんと年末のG I で3連勝だったんですよ！そんなことなら相乗りしときゃよかったなんてあなた、今頃言ってももう遅いのです。信じるものは救われるという法則が働いていますのであしからず(笑)。

しかし実は田中さんにはもっとすごいことが起こっていました！  
なななんと、高校時代の母校である県立鹿児島工業高校が鹿児島県の県立高校としては53年ぶりの甲子園初出場を果たし、そそそしてなななんと、あれよあれよという間に勝ち進み、ついにベスト4まで勝ち進んでしまったのです。あのハンケチ王子さえいなければ優勝も夢ではなかったくらいの快進撃でした。

そして幸福のキーマン田中さんはもちろん同校の野球部OBであり、社会人野球まで進んだ人でしたので、ジャンジャンと野球部先輩OBから甲子園への誘いの電話が入ってきて、一勝するごとに新幹線に乗って甲子園に行く破目になってしまいました。みなさん、これはとんだ散財だと思いますか？  
わたしはあの時程うれしそうな田中さんの顔を見たことはありません。恵比須顔とはまさにあのような顔だろうと思いました。

母校の甲子園出場がなければ人生で二度と会えなかったかもしれない人たちに会え、ハラハラドキドキの熱戦の末、勝利の美酒に酔いしれ、歌い、踊り、叫び、時を忘れ思い出話を語り合い、こんな桃源郷あるいは竜宮城のような時間をすごした田中さん。祝勝会の会場から毎回、酔っ払いながらうれしそうに『社長！今日も帰して貰えそうにないので明日の現場キャンセルをお願いします！！』と電話してきた田中さん。本当にうらやましかったです。

さてみなさん、今回の出来事、『偶然の一致』と考えますか？それとも『必然』と考えますか？  
現代科学は『人間はなぜ笑うのか？』とか『なぜ人間には右脳と左脳があるのか？』なんていう単純な疑問にすらいまだ答えが出せていない以上、『偶然』といっても『必然』といっても、どちらでもいいと思うのですが、今回の出来事を『偶然』といってしまうと何かとても人生が冷たく味気のないものを感じられ、『必然ありがたやありがたや』と考えれば、何か昔、布団の中でウトウトしながら聞かされた昔話の中に入り込んだようなとても暖かい気持ちになります。

どちらがお得な人生ですか？(笑)

物語のある人生と一緒に紡いで参りましょう。めでたしめでたし。

感謝 羽原篤史

